# 会計年度任用職員制度について

一点目に、2020年4月から、地方自治体に非正規職員の新たな雇用形態として会計年度任用職員制度が導入されるに伴い、雇用不安や官製ワーキングプアの解消、労働条件の改善などの課題について見解を伺いました。　二点目に、子育てと医療費の中学校までの補助の拡充について質しました。

**植田**　来年4月からの臨時非常勤職員が会計年度任用職員に移行は、公務員制度の大転換であり、自治体職員の働き方や仕事にも大きな影響を与え、住民福祉や行政サービスの低下、働く人たちの労働条件の改悪、権利の抑制や雇用不安が高まってはならない。

再任用の際の空白期間は不適切で、速やかに廃止すべである。

**人事課長**　正規職員273人、臨時・非常勤嘱託員は174人で、空白期間は、臨時・非常勤職員19名の方が該当。雇用される側の空白期間はマイナス面が多く、会計年度任用職員制度では不適切な空白期間の是正を図るよう示されています。また、雇用の年限の上限ルールは無いが、会計年度における任用ごとの能力検証は必要と考えています。

**植田**　勤務・業務実態を加味し、経験者採用枠を拡充し、正規職員への転換の見解を伺います。

**人事課長**　数年前から新卒にこだわらず経験者枠の試験を実施しています。毎年受験をする方もおられます。最少の費用で、最大の効果を上げるため、優秀な人材を確保することに努めたい。

**植田**　恒常的業務に臨時、非正規職員をつけている場合は同一労働、同一賃金の均等待遇となっていると考えるが、待遇改善について見解を伺います。

**人事課長**　一部均等待遇とは言えない面があったが、法改正で改善され、待遇差の解消を目指しており、均衡、均等待遇に向けた取り組みは重要である。

**植田**　国の非常勤職員との権衡の観点を踏まえて、有給休暇や産前産後、介護休暇等の制度化について見解を伺います。

**人事課長**　休暇制度は、年次有給休暇と特別休暇で、国の特別休暇のほとんどが無給である一方、本市では、そのほとんどが有給。総じれば本市が国より条件がよく、働きやすい職場と言える。

**植田**　制度の開始に伴い、職員団体等や当事者との協議や条例化に向けたスケジュールを伺います。

**人事課長**　雇用の実態把握を昨年10月までに行い、それに基づき、業務委託の検討、職の改廃など、この職場は特別職、この職場は会計年度任用職員と、整理を昨年12月に行った。今後は、勤務労働条件の検討に関し、職員組合との協議を進め、9月議会で条例制定を予定。内容が固まれば臨時、非常勤の方へ、制度の周知と募集にかかり、並行してシステム改修も行いたいと考えています。

**植田**　正職員との配置割りなどの精査について伺います。

**人事課長**　正規職員との配置割合に関しては、江津市子ども・子育て支援計画といった各セクションでの中・長期的計画や江津市定員管理計画などを勘案し、直営か委託か、直営なら正規職員でするのか、非正規職員でするのか精査したいと考えています。

**植田**　今回の法改正では、待遇の改善が図られると考えますが、会計年度任用職員の給与または報酬の水準、手当の支給、休暇制度について常勤職員との均衡を図ることと共に、職員団体との十分な協議について見解をお伺います。

**人事課長**　労働環境の改善という点も確かにそうですが、公務の能率的かつ適正な運営のためという点こそ重要であり、そのための手段としての労働環境の改善であると考えています。

職員組合とは鋭意協議を進めており、当事者への説明は丁寧に対応したいと考えています。

**植田**　十分な協議、当事者の意思を尊重し進めることが大事だと思ますが、臨時、非常勤職員はさまざまな分野で行政サービスを円滑に行うために重要な要員となっており、経験やスキルを勘案すれば会計年度任用職員として引き続き採用することが最適であり、任用の根拠の見直しによって正規職員の配置が適当と判断した場合、現行の臨時、非常勤職員を常勤職員に転換することが最適であるが見解を伺います。

**人事課長**　職の見直しにより、正規職員で配置すべきと判断した場合や、フルタイムで対応すべきと判断されれば、そのように対応する必要があると考えています。フルタイムの会計年度任用職員として現在勤めておられる臨時、非常勤職員の中から選考する方法もあろうかと思いますが、これも正規の職員と同様にフルタイムの会計年度任用職員としてふさわしい能力実証を行うことが必要と考えています。

**植田**　パートタイムについて、期末手当を支給すべきと私は考えますが、見解を伺います。

**人事課長**　総務省の事務処理マニュアルでは、国家公務員との情勢適応の原則や均衡の原則、民間の労働者を取り巻く情勢を踏まえれば支給すべきもであります。財源負担も考えつつ、公務の能率的、適正な運営を図っていく必要があり、鋭意詰めたいと考えています。

**植田**　フルタイムでの任用を基本と考えますが見解を伺います。

**人事課長**　フルタイムとかパートタイムありきで検討でなく、どの形が公務の能率的かつ適正な運営かを基本に検討する。

**植田**　年収2百万円以下の官製ワーキングプアの改善を、行政が示すことも大切で、この制度が、非正規職員の固定化や雇用の調整弁になってはならないと思います。

## 【一般質問項目】

1、会計年度任用職員制度について
（1）現行の臨時・非常勤職員の待遇及び労働条件について
（2）会計年度任用職員制度の導入にあたっての対応について
2、子育てと医療費などの補助の拡充について
（1）コンビニ受診の懸念について
（2）医療費の膨張の懸念について
（3）国民健康保険の減額調整について
（4）乳幼児の予防接種について
（5）妊婦一般健康診査について

# 子育てと医療費補助の拡充を

次に、中学校卒業まで医療費助成の拡充は、コンビニ受診の懸念や国保の法定外繰り出しの財政事情において拡充に踏み出せない要因ではと推察します。少子化の原因は経済的システムや社会的構造など、本質的な問題はありますが、未来を担う子供の子育て支援は社会的ニーズであり、医療費助成は家庭の収入に関係ない恩恵や利用しない者との不公平感の問題などありますが、本当に必要としている子育て支援にとって経済的負担の軽減は切実な要求です。

現行の制度の中でコンビニ的な受診の実態について伺います。

**保険年金課長**　医療機関等からそういう情報はなく、市としては把握をしていません。

**植田**　コンビニ受診は、制度導入のリスクとして重要な問題でないと考えますが、見解を伺います。

**保険年金課長**　コンビニ受診に関する広報、啓発活動を行い、子供さんの医療費助成がある、ないの有無にかかわらず、子育て世代の皆さんは、こうしたものを活用し良識ある判断により、適正に受診をされていると思っています。

**植田**　医療費助成の拡大は、医療費の膨張という懸念をされますが、体の健康を守る早期発見、早期治療は、生涯健康の源になり、ひいては医療費の抑制にもつながり、活力ある社会、地域づくりにつながるが、見解を伺います。

**子育て支援課長**　子供のころから健康の増進に努め、生活習慣病の予防を進める取り組みをしており、生活改善に合わせて早期発見、早期治療を行うことで疾病の重症化予防、医療費コストの削減につながると考えています。今後も、健康に対する市民の意識を高め、医療費コストの抑制に努めてまいります。

**植田**　中学校までの医療費の助成は、8市中5つの市が中学校3年まで、行っています。自治体間競争や子供の奪い合いは望ましくないが、命の重さは同じで、自治体間格差があってはならない。見解を伺います。

**保険年金課長**　命の重さは同じで、子供がどの地域で生まれても等しく医療費助成が受けられるよう、国の責任において制度化を市長会を通じて要望を続けいます。

**植田**　犬山市の広報で、若者世代の定住促進と地域経済の活性化、高齢者対策も含め、自治体運営の安定化にも役立つと述べてます。まさに、医療費のコスト削減による自治体運営の安定化と地域経済の活性化につながる役割があり、将来に向け積極的な投資と考えますが、見解を伺います。

**保険年金課長**　将来を担う子供たちへの投資とも言えます。

医療費の助成期間の延長含めて、全ての事業を実施できれば良けれど、財源を考え現時点では困難と考えています。

**植田**　上限外来で千円、入院で2千円とか、せめて小学生卒業までの考え方ないか見解を伺います。

**保険年金課長**　小学校までは試算をしてませんのでわかりませんが、財源的に極めて困難です。

**植田**　子育て世代に負担がかからない制度は定住対策、少子化対策であり、子供を産み、育てることを社会全体で応援しているメッセージであり、優先順位を早急に検討し、導入すべきことを述べて、次の質問は、ロタウイルスワクチンとおたふく風邪の予防接種の助成について伺います。

**子育て支援課長**　現在、これらの予防接種費用の助成については考えてませんが、子育て世代の経済的負担の軽減は、子育て支援施策の中で取り組みを行っており、御理解をいただきたい。

**植田**　病気の予防、流行を防ぐ観点からも予防接種の費用の拡充の検討をお願いをしておきたい。

妊婦一般健康検診について、予定日を過ぎた検診は助成が行われないが、実質的な出産までの助成について見解を伺います。

**子育て支援課長**　出産予定日を過ぎた場合、母体や胎児の健康を確保するため、医療の実施も考えられ、健康診査の助成は、国の基準である現行助成と考えています。

**植田**　安心して子供を産み育てる環境づくりは行政の重要な役割です。少子化対策の特効薬は雇用の安定と子育ての充実が両輪であり、地域の活性化にも高齢化対策にもつながり、江津市の総合戦略の一つの柱となるということを述べて私の質問を終わります。

「あめつち」を波子駅にて撮影